

日時: 2014 年 10 月 30 日 13:30-15:00

場所: 406

## フォーカストセッション

### アカデミア創薬

### *Drug Discovery in Academics*

#### 開催趣旨:

近年、オープンイノベーションという名のもとにアカデミアと製薬業界の協業が声高に言われている。この背景として製薬業界においては新薬創生力の低下、また日本の製薬企業が不得手であった抗体医薬品、核酸医薬品などのバイオ医薬品へのキャッチアップの問題がある。医薬品研究開発の技術も非常に複雑で高度化している。一方アカデミアにおいても各大学での研究をどう社会に還元していくかが大きな課題となっている。最近、独立行政法人医薬基盤研究所においても創薬支援戦略室が設置されてアカデミアの研究シーズを産業界に結び付ける試みがスタートした。東大 TLO は技術移転組織の代表として数多くの連携を促進してきている。本セッションではこれら先進的な取り組みを紹介していただき、さらなるオープンイノベーションの促進を目指すためのディスカッションをしたい。

モデレーター: 坂田 恒昭 Tsuneaki Sakata  
大阪大学大学院基礎工学研究科  
Graduate School of Engineering Science, Osaka University

田中 成典 Shigenori Tanaka  
神戸大学大学院システム情報学研究科計算科学専攻計算生物学講座  
Graduate School of System Informatics, Department of Computational Science, Kobe University

東京大学における産学連携について  
University-Industry Collaboration at the University of Tokyo

東京大学 TLO 代表取締役社長 山本 貴史  
Takafumi Yamamoto, CEO & President of TODAI TLO

今年、国立大学法人化から 10 年目を迎える。諸外国との比較の中では、日本における産学連携活動は、この 10 年間で進んだところも数多くあるが、一方で課題も明確化しつつある。本セッションでは、産学連携活動において、日米の比較を行いながら、東京大学における産学連携活動、取り分け技術移転について東京大学 TLO の活動を紹介する。東京大学の活動事例を紹介する中から、産学連携活動がいかにイノベーションに寄与するか。また、この活動を推進するためのボトルネックが、産業界・大学 (旧国立研究所含む)・行政においてどこに存在するか、また、どのような解決の方向性が考えられるかという点に言及し、今後の産学連携活動のあり方について議論を展開したい。

アカデミア発創薬実現のための創薬支援戦略室の取り組み  
Activities of iD3 in the Drug Discovery Support Network for developing innovative drugs based on academic researcher's discoveries

(独) 医薬基盤研究所 創薬支援戦略室 東日本統括部長 高子 徹  
Tohru Takashi, NIBIO, iD3

創薬シーズやアイデアは枯渇感があり、アカデミアの基礎研究成果に期待するところが大きい。創薬支援戦略室はアカデミア創薬の実現を目指し、所謂「死の谷」を超えるために創薬ブースターを中心とした事業を推進している。これまでに 20 を超えるテーマを創薬支援ネットワークの支援テーマとして採択させていただき、創薬支援戦略室のコーディネーターがプロジェクトマネージャーとして先生と一緒にテーマを進めている。創薬支援戦略室の取り組みとこれまでの活動状況を紹介する。